

表-8. 飼育結果 - 2 (マダイ)

試験区 (区)	養成期間		尾数(尾)		体重(g)		尾叉長(mm)		養成日数(日)	投餌量(kg)	歩留り(%)	日間投餌率(%)	日間生長率(%)	餌料転換効率(%)	増肉後数	備考
	開始時	終了時	開始時	終了時	開始時	終了時	開始時	終了時								
5	1981 6・1	8・13	1,003	901	3.2	38.1	51.7	110.0	74	36.4	89.8	2.5	2.3	92.0	1.17	中間測定(1)
	8・14	10・16	901	756	38.1	97.0	110.0	150.0	64	65.3	83.9	1.9	1.4	73.7	1.67	中間測定(2)
	10・16	12・23	756	743	97.0	163.1	150.0	178.2	68	89.0	98.3	1.3	0.7	53.8	1.86	
6	6・1	8・7	2,144	1,944	2.7	31.9	47.6	100.0	68	84.7	90.7	3.5	2.5	11.4	1.4	

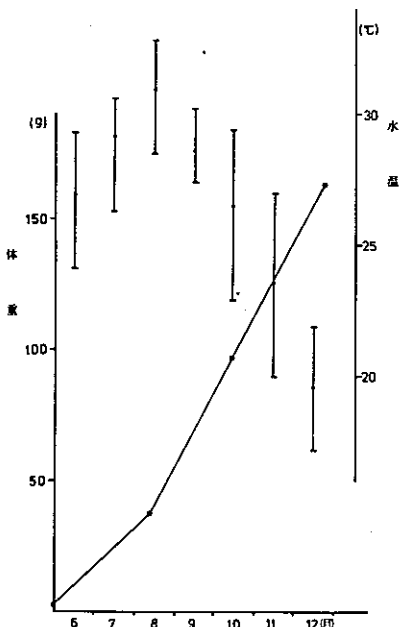


図9. マダイ(試験区5)の成長と水温
ミナミクロダイ中間育成試験

1 材料と方法

供試魚は当支場陸上池で生産したものを使用し、10、11、13mmサイズの3段階の沖出し飼育試験を実施した。

生簀設置場所及び水温、塩分濃度測定はマダイ同様である。沖出しはマダイ同様で、計数は10容器にはほぼ同数となる様稚魚を収容しこれを1組として輸送し、各組1容器の稚魚数を正確に数え輸送容器数から算出した。中間測定及び取り上げ時には指標となる容器をあらかじめ用意し、それと同数になる様稚魚を収容し、要した容器数から算出した。

使用した生簀は3×3m枠6面、5×5m枠3面であった。餌料及び投与方法はマダイと同様であるが、魚肉ミンチ投与の開始時期がかなり遅れ、早いもので沖出し後20日目からであった。またミナミクロダイ受精卵も少量であるが投与した。生簀網は試験区によって異なり、3×3m枠では220径モジ網(3×3×1m)160径モジ網(3×3×2.5cm目まで

少したが、中間測定(1)までは生簀枠の関係上、外網の上縁が水面下に没する部分があり散発的に食害による斃死が認められ、多い日には1日6尾の被害があった。これらの斃死魚数は中間測定(1)までの確認斃死魚数の大半を占めた。また5区では中間測定(1)以後5日間で合計59尾の斃死があったがこれは測定時の魚の取扱いに問題があったと思われる。その他台風による魚の逃逸があったと推定された。

増肉係数は1.17～1.86であり非常によい結果であった。

異形魚については、中間測定、放流時に各々50尾の魚体測定を行ない、その時肉眼で有無を調べたが、3～5尾認められ出現率は6～10%であった。